

令和5年度

第3回豊島区在宅医療連携推進会議

令和6年2月2日（金）午後7時30分～
オンライン会議

《次第》

1 開会

2 議事

- (1) 各部会の報告
- (2) 在宅医療相談窓口の実績報告について
- (3) 歯科相談窓口の実績報告について
- (4) 在宅医療コーディネーター研修の実績報告について
- (5) 令和5年度豊島区在宅医療連携推進会議交流会について

【配付資料】

資料1	ICT 部会報告資料
資料2	口腔・嚥下障害部会報告資料
資料3	服薬支援部会報告資料
資料4	訪問看護ステーション部会報告資料
資料5	リハビリテーション部会報告資料
資料6	豊島区在宅医療相談窓口・多職種連携拠点実績報告書
資料7	豊島区歯科相談窓口実績報告書
資料8	豊島区在宅医療コーディネーター養成講座基礎編実績報告

参考資料1 在宅医療相談窓口相談事例

参考資料2 歯科相談窓口相談事例

【当日資料】

当日資料1 令和5年度豊島区在宅医療連携推進会議交流会について

令和5年度第3回豊島区在宅医療連携推進会議 ICT 部会報告

I. 報告事項

- (1) 豊島区医師会多職種連携ネットワーク(表 1)
- (2) 令和5年度東京都在宅医療推進強化事業(24時間診療体制推進)について(図 1)

II. 今年度計画

- (1) 豊島区医師会多職種ネットワーク(としまるネット)の再周知
- (2) オンラインカンファレンス・オンライン診療の検討
- (3) 多職種連携システム利用に伴うメリットの確認
 - ・保険請求の要件となる事項について
- (4) 病診連携の推進
- (5) 令和5年度東京都在宅医療推進強化事業(24時間診療体制推進)について

文責:水足一博

表 1 豊島区における MCS 利用状況(月別統計)

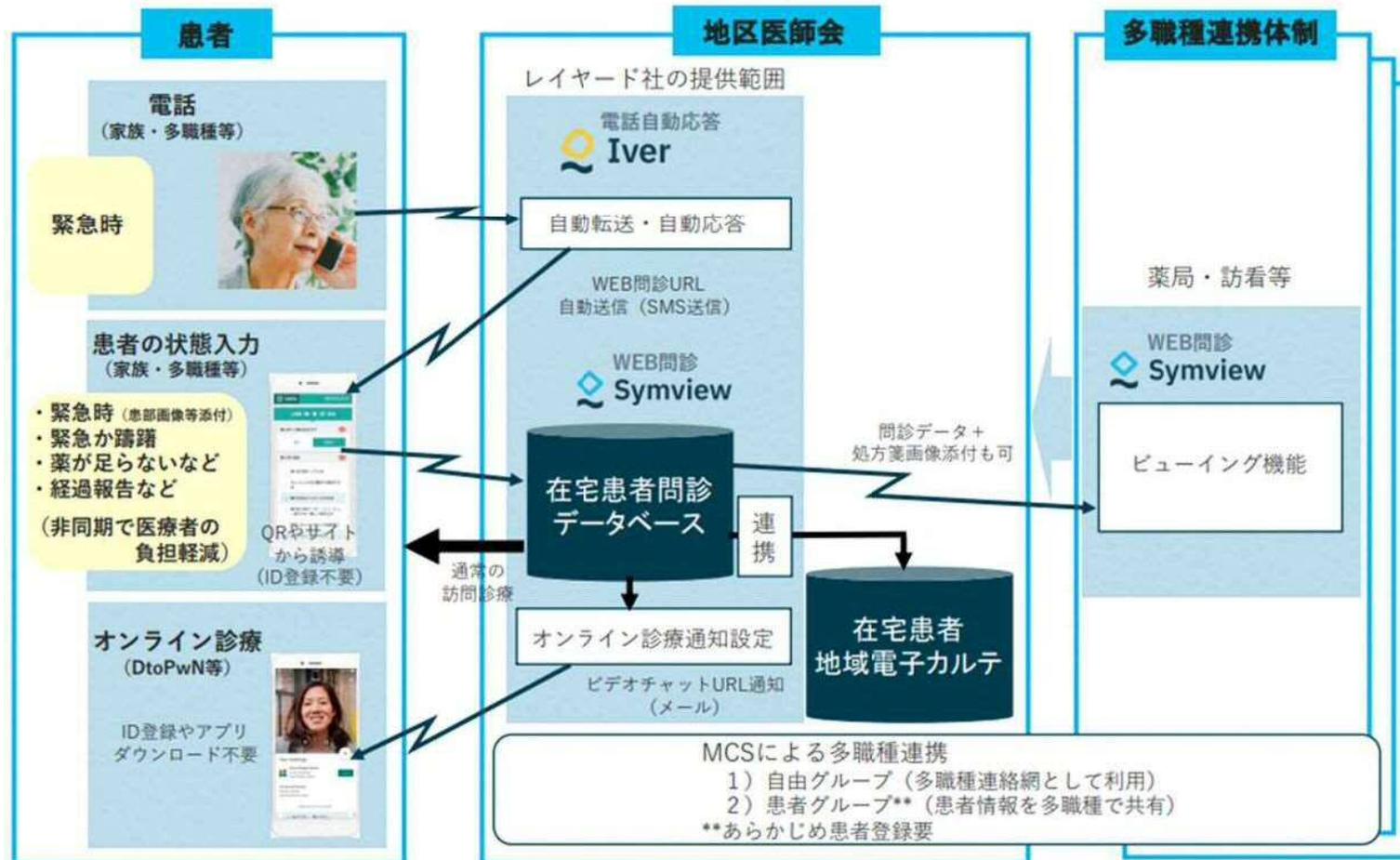
月別統計 Medical Care Station			
ユーザー総数			
◇すべて	先月(委員会時)	増減	
2345	2331	+14	
◇医療介護職			
1829	1818	+11	
◇一般			
516	513	+3	
施設総数			
◆医療介護関連施設			
822	815	+7	
投稿総数			
○すべて	先月(委員会時)	増減	
841145	830092	+11,053	
○医療介護職			
802667	792727	+9,940	
○一般			
38478	37365	+1,113	
自由グループ総数			
●自由グループ			
924	880	+44	

	ユーザー数	投稿数	患者数	施設数	自由グループ数
2023年11月	39	12022	91	7	5
2023年10月	53	12913	91	11	6
2023年9月	35	12480	103	10	13
2023年8月	35	12623	82	2	2
2023年7月	36	12320	74	6	7
2023年6月	31	13026	97	5	10
2023年5月	24	12354	97	0	3
2023年4月	49	11486	96	7	12
2023年3月	27	12577	106	5	6
2023年2月	17	11113	90	2	8
2023年1月	23	11875	90	3	8

東京都在宅医療推進強化事業

東京都在宅医療推進強化事業での医療DX化構想案

パターン2：カルテとSVで患者管理



令和5年度

在宅医療連携推進会議

口腔・嚥下障害部会

令和5年度 口腔・嚥下障害者への取り組み

◎口腔機能向上・予防事業

健口キャラバン（出前型口腔講座）の実施

2023年度 健口キャラバン(出前型口腔講座) 実施予定				
実施日時	場所	担当者	介護予防リーダー	参加人数
5月10日 13:30~14:30	東池袋フレイル対策センター	小川	本宮（高齢者福祉課）	15名
6月1日 13:30~14:30	区民ひろば千早	小川	本宮（高齢者福祉課）	15名
9月6日 10:30~11:30	区民ひろば高南第一	小川	本宮（高齢者福祉課）	14名

ミールラウンド

山吹の里 4~12月 33人

シオンとしま 4~12月 27人

豊島区委託事業・短期集中型口腔ケアプログラム

訪問型 4~12月 2人

◎令和5年度「あぜりあ歯科」在宅歯科訪問診療実績

令和5年4月~令和5年12月

実人数：194件 延べ訪問回数：576回

◎令和5年度高齢者介護施設歯科訪問診療実績

令和5年4月~令和5年12月

実人数：560件 延べ人数：3,071件

◎摂食嚥下機能訓練外来（毎月第3火曜日実施）

令和5年4月～令和5年12月

実人数：29件 延べ人数：46件

出張摂食嚥下機能訓練外来（西部子ども家庭支援センター）

令和5年9月26日

保護者・職員向け講演会 16人

個別指導 2組4人

◎令和6年度より、管理栄養士を1名さらに1名「あぜりあ歯科診療所」で非常勤雇用契約を結び、毎月の摂食嚥下機能訓練外来に参加してもらい、障害児への栄養指導に参画してもらうことになった。併せて在宅療養者への訪問栄養指導も行ってもらおう。

◎東池袋フレイルセンターでの活動にも協力していく。

◎「あぜりあ歯科診療所」を認定栄養ケアステーションとして登録していく。

服薬支援部会報告

ケアマネージャーと薬剤師の合同セミナー開催

R5.9.1、10.2、12.5 の 3 回開催

- ・ テーマ、開催方法について検討
- ・ 薬剤師がどう役に立っているのか分からない、ケアマネージャーがどんなことをしているのか分からないなどの意見
- ・ 両職種でアンケートを実施し現状を把握する

	日付		相談者	相談内容	回答内容
1	9月	平日	女性	コロナ陽性で、昨日来局。8歳、34kg。なかなか解熱しない。40°Cの時もあった。カロナール錠300mgを服用しても完全には下がりきらない。6時間くらいあけて1日何回くらいまでなら服用可能か。昨日は3回のだ。	1日総量60mg/kg（成人量を超えない）→ $60 \times 34 = 2,040\text{mg/day}$ 。→しかし、急性上気道炎での成人上限量1,500mg。→1日4回までなら可と回答。
3	9月	平日	未記載	①昨日ゾコーバ錠125mgを調剤してもらった。弱い頭痛がするが、副作用か。②ゾコーバ錠125mgとメジコン、カルボシステイン、PL顆粒およびトラネキサム酸を併用してよいか。	①コロナ罹患でも頭痛がでる人もいる。様子を見て今まで未経験の痛みが出現したら受診するよう伝えた。②併用可と回答。
4	9月	休日	女性	抗インフルエンザ薬、トランサミン錠500mg、カロナール錠500mgを服用中。他、貧血によりクエン酸第一鉄、レバミピド錠を服用している。本日より月経開始したが、疼痛緩和のためロキソプロフェンNa錠60mgを併用してよいか。	現在、カロナール錠500mgを服用しているため、痛みの軽減は期待できると思われるが、痛みが治まらないようならロキソプロフェンNa錠60mgへの切り替え可と回答。
5	9月	休日	未記載	昨日来局。カロナール錠500mg、アレグラ錠60mgを5日分処方された。①常用薬のピタバスタチンCa錠を併用してよいか。②発熱はないが、頭痛があるためカロナール錠500mgを継続したほうがよいか。	①併用は問題ない。②継続した方がよいと回答。
6	9月	休日	未記載	フルタイドディスカスとディレグラ配合錠との併用は可能か。	可能と回答。
7	10月	平日	神奈川県内の病院	カフティーポンプのレンタルを希望しているが、可能か。	貸出条件を伝えたうえで、対象外であることを確認し、不可と回答。
8	10月	平日	地域保健課感染症対策室	区民から薬局に医薬品がないとの訴えがあったが、それは本当か。	報道されているとおり、鎮咳薬等の供給が滞っていると回答。
9	10月	休日	区内病院	年末年始にコロナ薬等の対応をお願いしたい。鎮咳薬等不足している場合は削除してもらって大丈夫。後日、電話やFAXで連絡をもらえれば処方修正する。	対応可能と回答。
10	11月	平日	女性	東京医科大学病院にて家族がインスリン注射をもらっている。注射の都度、注射針を交換しないため、未使用の注射針が14本/袋 約90袋ある。医師に注射針の処方を一時的に中止してもらうように伝えたが、受け入れてもらえなかった。未使用分の処分をお願いしたい。	注射の都度、注射針を交換すべきということ伝えたうえで、回収可と回答。週明け持参して、回収した。
11	12月	平日	看護師	在宅患者が死亡後、時間が経過してから使用済注射針が発見された場合、どの薬局で引き取ってもらえるか。	①「ひまわり」での検索方法を伝え、電話して指示を受ける。②豊島区薬剤師会事務局に相談する。という2つの方法を話した。

12	12月	休日	28歳女性 性の家族	タミフルとセルシンを併用してよいか。もともと障害がある。昨日インフルエンザを発症し、タミフルの服用を開始した。白眼をむいて、横になるが起きたりもする。普段から眠れないと屈伸運動をする。今日もしている。	のみあわせは問題ないと回答。目を離さないように。何かあれば、#7119に電話するように話した。
13	12月	平日	医師	メプチン吸入液ユニットの処方箋記載方法を教えてほしい。	全量、用法・用量などの記載方法を説明した。
14	12月	休日	未記載	アデホスコークワ顆粒、セファドール錠、メリスロン錠6mg（院内処方）とソートラム錠25mg、ワイパックス錠0.5mg、アリナミンF錠50mg、ムコスタ錠100mg（院外処方）の併用は問題ないか。	のみあわせは特に問題ないと回答。

	9月	10月	11月	12月	
カフティーポンプ	5件	7件	7件	7件	7台所有
キャドレガシー	3件	2件	3件	3件	3台所有

令和5年度第3回在宅医療連携推進会議 訪問看護ステーション部会報告

会議開催：なし

<報告事項>

体験研修

- 目的 ①病院看護師へ在宅医療の現場及び訪問看護の実際を知ってもらい、在宅療養の可能性を広げ、継続医療について考える機会とする。
②看看連携の実践の場とする。

方法 病院看護師が訪問看護師に同行し、在宅患者宅を訪問。

実施予定時期 1月～3月

体験研修希望医療機関

- 東京都立豊島病院（6名）
- がん感染症センター都立駒込病院（2名）
- 日本大学医学部附属板橋病院（2名）
- 東京医科歯科大学病院（2名）
- 国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院（3名）
- 順天堂大学医学部附属 順天堂病院（2名）
- 東京都健康長寿医療センター（2名）
- 都立大久保病院（1名）
- 東京都立大塚病院（2名）

受入れステーション：9ステーション

<今後の活動計画>

令和6年3月 部会開催

- ・体験研修まとめ
- ・次年度の活動計画

在宅医療連携推進会議臨床倫理部会設立の提案

目的：多様な倫理的問題に気づき、在宅医療・ケアの安心、安全、質の向上につなげる。

倫理的問題を検討することとは？

⇒患者、家族、医療介護従事者が在宅医療ケアの中で生じる、価値問題に関する不確実性や対立に関するさまざまな問題を在宅医療ケアチームで検討することは、「本人にとっての最善」に繋がり患者、家族だけでなく、医療介護福祉従事者を守ることに繋がる。

取り組み

1. 臨床倫理に関する知識啓発

- ① 在宅医療ケアの中で違和感（ジレンマ：治療拒否、服薬拒否、支援拒否、過剰要求など）を覚えたり、誰かと対立的関係になったり、リスクを感じたりする場面で、在宅医療ケアチームで、立場の違い価値の違いを検討できる。
- ② ACP（終末期の意思決定支援、認知症の人の日常生活、社会生活における意思決定支援、摂食嚥下に関する意思決定支援、身寄りがいない人の入院及び医療にかかる意思決定が困難な場合の支援など）、ハラスメントなど、在宅医療ケアの中で倫理的問題が発生したとき、検討する方法を学ぶ。
- ③ 臨床倫理原則をもとに分析することができ、立場の違い価値の違い、どの倫理原則を重視しているのか意識することができる。

2. 医療ケアチーム内で倫理カンファレンスのできる仕組み作り

3. 必要に応じて倫理的課題相談チームに相談できる仕組み作り

令和5年度第3回在宅医療連携推進会議

リハビリテーション部会報告

<活動報告>

1. 第2回事業所紹介について
令和5年11月10日 金曜日 18時30分～19時30分
ZOOMでの開催
3事業所の紹介
 - ・ゆみのハートクリニック
 - ・長汐病院
 - ・豊島区心身障害者福祉センター

2. 体験研修について
今年度も実施予定
現在開催に向けて、受け入れ施設及び体験希望者の募集準備中
3月頃開催と考えているが、感染症の状況を踏まえて判断予定

3. 令和5年度第2回リハビリテーション部会
今年度中に開催予定
新メンバー2名の加入もありメンバー紹介及び今年度の活動の振り返り予定

4. ミニ講座について
今年度開催予定だったが、開催方法に様々な意見があり再度検討。
来年度に開催予定

5. 広報誌
現在見直し中
出来次第発行予定

令和5年度

豊島区内在宅医療連携の為の
リハビリテーション施設紹介

2023.11.10_web開催
事後アンケート結果

2023.11.28

豊島区在宅医療連携推進会議
リハビリテーション部会

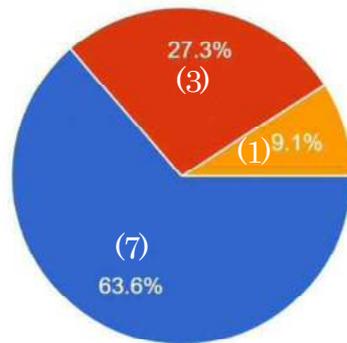
アンケート回答者（11名）の属性

ケアマネジャー	1名
歯科衛生士	1名
理学療法士	4名
看護師	2名
医療ソーシャルワーカー	1名
相談員	1名
事務	1名

※ZOOM事前登録数	20名
当日参加者数	14名
参加率	70%（14／20）
アンケート回答数	11名
アンケート回答率	約79%（11／14）

Q1. 今回の事業所紹介はいかがでしたか？

11件の回答



評価	件数	割合
5.とても良かった	7	63.6%
4.良かった	3	27.3%
3.普通	1	9.1%
2.良くなかった	0	0.0%
1.全然良くなかった	0	0.0%

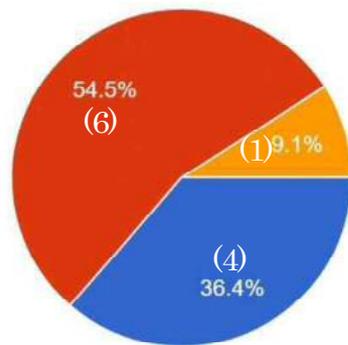
Q2. Q1の回答に関してどういった点でそう思われましたか。

11件の回答

- ・ 診療所、病院、区役所と特色が異なる3ケースの取り組みを聞くことができたため。
- ・ 他の事業所や病院の取り組みについてお話しが聞けたのでためになりました。
- ・ 地域の社会資源をどのように活用していくかアイデアが浮かびました。
- ・ 退院後のフォロー体制の確保の難しさを知ることが出来た。
- ・ 普段の日常業務では分かりにくい
- ・ 各会社ごとに取り組んでいる事などわかりやすく理解することができた。
- ・ 事業所の特色がよくわかり、所属人数や、業務内容も詳しくかったです。
- ・ スライドが見やすく適切だったと思います。
- ・ 各事業所の特色や取り組みが良く分かりました。質疑の時間があり、多くの意見が聞けたのと、直接の発表事業所では無かった所も自己紹介をして下さったりと、短時間ながら充実していたと思います。
- ・ 各事業所での取り組みがわかりました。
- ・ 途中参加でしたが、各施設での事業内容がわかり、勉強になりました

Q3. 今回の紹介で各事業所の理解は深まりましたか？

11件の回答



5.とても深まった	4 (36.14%)
4.深まった	6 (54.5%)
3.普通	1 (9.1%)
2.あまり深まらなかった	0 (0.0%)
1.全然深まらなかった	0 (0.0%)

Q4. 事業所紹介で、もっと知りたい内容等があれば教えてください。

11件の回答

- ・現場での業務の流れ。（ゆみのの発表のもっと詳しい版）
- ・長汐病院さんでは、退院前カンファレンスをどのくらい行っているのか知りたいです。
- ・在宅チームでのサポート症例。
- ・「椎名町分室」さんの発表内容…今後大いに参考にしたいです。
- ・各事業所ごとで短い時間でも良いので紹介をしてほしいです。
- ・緊急時の対応方法について
- ・回復例、回復困難例などのエピソードを学びたいです
- ・事業所内での多職種連携について知れる機会があれば嬉しいです。
- ・対象患者さん・利用者さんが、どのようなリハビリを受けられるのか判断してくれる機能を持つ事業所・医療機関の情報。
- ・退院に向けたリハビリ方法と訪問診療を始め、在宅チームとのかかわりが知りたい。
- ・今回と同じ内容で良いと思います

Q5.今後リハビリ職から学びたいor取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください。
11 件の回答

- ・ 入退院連携の具体的流れと成功・失敗談
- ・ 難病の方に対してのリハビリ方法や課題についてなど
- ・ セラピストのいない訪問看護ステーションや介護職との協働で生活リハをどのように充実させるか。
- ・ ケアマネとして知っておきたいので、医療関係の方からこれは是非ケアマネに知っておいて欲しいと思われること、全てことなんでも教えてください。
- ・ 連携をキーワードとして、急性期—回復期—在宅で一つの事例を通した検討会を行ってほしいです。
- ・ 訪問リハでADLやQOLの向上に向けた様々なアプローチの方法があれば知りたいと思います。
- ・ 訪問歯科診療をしております。特に独居の方など人と関わりが少な目な方には、口腔ケア後に時間があるときなどは雑談をしながら手足も動かしてもらえるような工夫をしています。リハ職でない者でも、ベッド上や座位で、患者さんと一緒に軽く体操や運動ができるようなこと、注意事項があれば教えて頂きたいです。
- ・ 皆様のご意見を今後の発表の参考にさせていただきます。
- ・ 医療保険のリハと介護保険のリハの違いや実施可能期間（期限）について。
- ・ 在宅で取り組めるリハビリの方法
- ・ 特になし

Q6.その他何かありましたら、ご意見をお聞かせください。

7 件の回答

- ・この会は毎回質疑応答が活発でとても楽しいです。回を重ねていくことが大事だと思うので、第3回また一緒に頑張りましょう。
- ・介護保険ではリハビリに関する縛りが多いので、回復期リハ退院後の支援に苦労しています。
- ・Q5に書きました。
- ・他職種の方々の講演をしていただくことも新しい知識を入れる意味でも良いかと感じました。また、地域と部会として繋がり、リハビリ職の地域貢献活動が団体として行えるとよいと感じます。（すでに行っていたらすいません）
まだ豊島区に来て間もないですが、この地域に根差したリハビリ職としての地域支援を行っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。
- ・病院から在宅への流れをどのように連携していけば良いのか考えられればと思いました。
- ・患者さんの状態像に対応した地域のリハビリ資源（行政、医療・介護サービス、インフォーマルサービスなど）が一通りわかるような講演会、もしくは上記を網羅したリハビリ早見表&対応事業所リストなどがあるといいです。
- ・特になし

Q7.今回の事業所紹介をご覧になって、ご自身の...と思われましたか？（※リハビリ関連事業所のみ）

11 件の回答



令和5年度 豊島区在宅医療相談窓口・多職種連携拠点 実績報告書

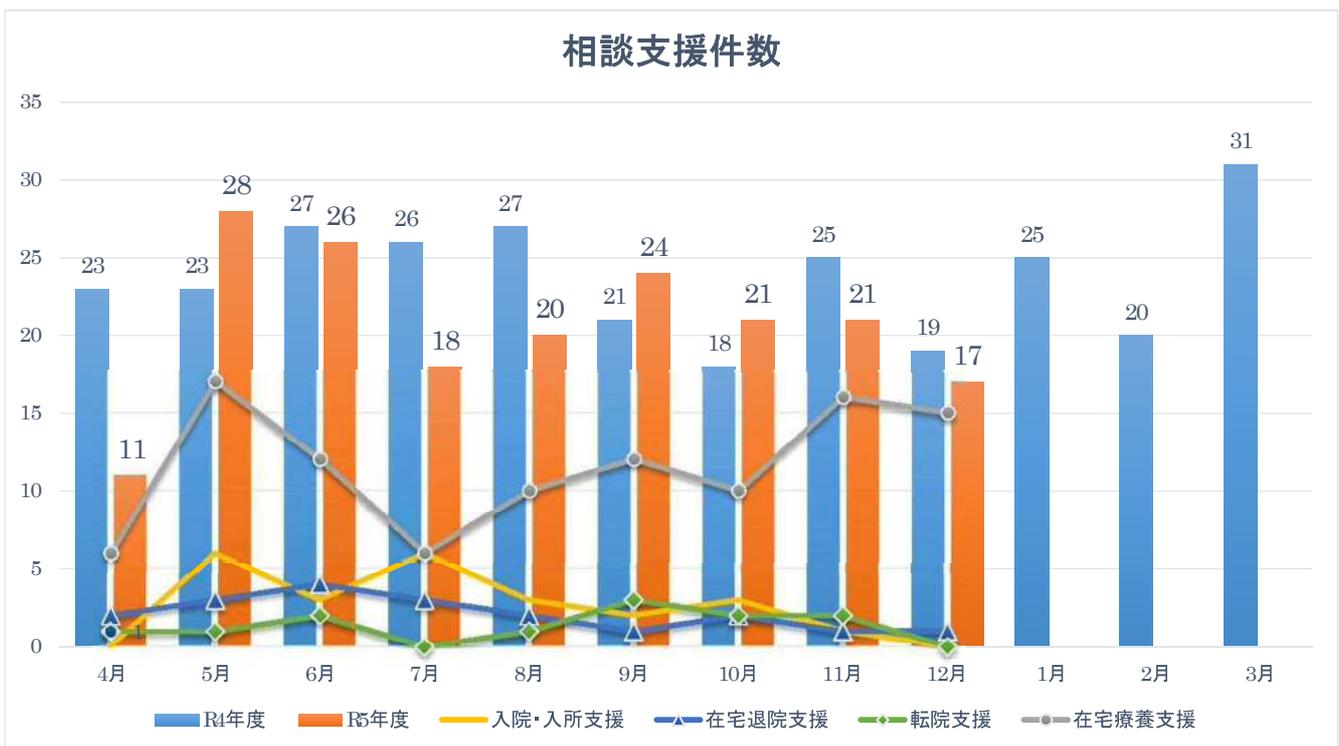
1. 相談支援ケース

新規	ケース数														合計
		R5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		R4年度	23	23	27	26	27	21	18	25	19	25	20	31	285

相談内容	在宅療養相談	在宅療養支援	6	17	12	6	10	12	10	16	15				104
		入院・入所支援	0	6	3	6	3	2	3	1	0				
	うち後方支援病床確保事業		0	3	2	3	0	0	1	0	0				9
	退院相談	在宅退院支援	2	3	4	3	2	1	2	1	1				19
		転院支援	1	1	2	0	1	3	2	2	0				12
その他		2	1	5	3	4	6	4	1	1				27	

依頼者	本人	1	3	3	5	1	6	4	2	5				30
	家族	2	6	5	0	4	4	5	4	5				35
	医師	0	1	0	1	1	0	1	1	0				5
	医療ソーシャルワーカー	0	2	3	3	1	4	3	4	1				21
	看護師	1	4	2	1	1	1	3	1	1				15
	ケアマネジャー	0	3	4	1	4	4	2	3	0				21
	地域包括支援センター	1	1	2	3	6	2	2	4	2				23
	コミュニティーソーシャルワーカー	1	2	2	0	0	1	0	0	2				8
	行政	3	3	2	1	0	1	0	0	0				10
その他	2	3	3	3	2	1	1	2	1				18	

業務方法	電話	90	137	78	85	95	87	91	117	82				862
	訪問(外出)	1	7	1	5	0	2	7	3	3				29
	館内	1	14	5	2	13	7	5	2	1				50
	来所	5	2	4	2	6	3	3	2	1				28
	郵便・FAX	3	9	0	3	1	2	4	1	1				24
	メール	0	6	3	5	2	2	3	2	5				28
	SNS(MCSなど)	5	22	6	8	13	6	8	16	6				90
	合計(延べ数)	105	197	97	110	130	109	121	143	99	0	0	0	1111



豊島区在宅医療相談窓口・多職種連携拠点 実績報告書（令和5年9月～12月分）

2. 普及啓発・情報収集活動(訪問・来所機関)

病院	区内	1	居宅・包括	4
	区外	10	介護関係事業所	3
診療所	区内	4	行政・社協	2
	区外	2	他地域 (医師会・行政・窓口)	19
歯科・薬局		0	その他	8
訪問看護		22		

【他地域(医師会・行政・医師会)】
・中野区(地域支え合い推進部)
・多摩市高齢者在宅療養支援窓口

3. 会議・研修 等

会議・打合せ

豊島区在宅医療連携推進会議、豊島区包括医療職部会、豊島区終活支援検討会 等

医療介護連携 関連

○豊島区地域医療・介護ネットワーク構築事業

・包括圏域ごとの多職種連携の会

日にち	圏域		開催方法/会場	内容(テーマなど)
9/4	全域	全体会	医師会館4階講堂/WEB	臨床倫理
9/14	アトリエ	多職種連携の会	区民ひろば富士見台/WEB	事業所紹介
10/8	いけよん	多職種連携の会	池袋本町公園	商人まつり(ブース・アンケート)
10/24	中央	多職種連携の会	上池袋コミュニティセンター	宣伝の会
10/31	いけよん	多職種連携の会	区民ひろば池袋	災害発災時の活動について
11/15	東部	多職種連携の会	区民ひろば仰高	区民向けイベント
11/17	東部	多職種連携の会	区民ひろば駒込	区民向けイベント
12/2	いけよん	多職種連携の会	池袋ほんちようの郷	区民向けイベント(映画上映会)

○その他、全体・医療機関主催 等

研修会・セミナー

日にち	会議・研修名 / 内容(テーマなど)	参加者	開催方法/会場
* 9/26	東京都医療ソーシャルワーカー協会 ブロック研修	中辻	としま区民センター
10/19	都道府県市町村担当者等研修会議 I	中辻	WEB
11/10	豊島区リハビリテーション部会(リハビリ施設紹介)	猿渡	WEB
12/15	豊島区高次脳機能障害講演会	加藤	身障センター

学術集会・講演 等

日にち	会議・研修名 / 内容(テーマなど)	担当	開催方法/会場
9/29	としま在宅病診連携講演会	中辻	医師会館4階講堂
	講演 継続医療について ～在宅医療相談窓口・MSWの立場から～		
11/19	医師会が進める在宅医療介護連携を考える会 シンポジウム	中辻	ナカノエフ/WEB
	シンポジウム 現場視点で考える在宅医療・介護連携推進事業と医療計画上の在宅医療連携拠点の関係性		

その他

日にち	会議・研修名 / 内容(テーマなど)	担当	開催方法/会場
4/1～	令和5年度 東京都入退院時連携強化研修実行委員会	委員:中辻	WEB
9/28-	東京都入退院時連携強化研修 A・B・C日程	ファシリ:中辻	WEB/飯田橋/看護協会
10/24	福祉救援センター初動訓練	見学:中辻	センタースクエア
11/6	日大板橋病院 医療連携講演会・懇親会	中辻	メトロポリタン
11/17	高齢者の災害体制PT 安否確認連絡訓練	見学:中辻	センタースクエア
*12/3	豊島健康展	中辻	としま区民センター

豊島区在宅医療相談窓口・多職種連携拠点 実績報告書（令和5年9月～12月分）

4. 新型コロナウイルス感染症関連事業

1. 地域における自宅療養者等に対する医療支援強化事業 実績報告(R5.4.1-5.7)

- ①自宅療養者に対する医療支援
- ②高齢者施設等における医療提供支援
- ①②ともに5/7にて事業終了

2. 高齢者施設に対する医療体制強化事業

5/17より体制整備

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
診療実績(遠隔/往診)	0	0	0	0	0	0	0	0
体制整備日数	11	22	20	22	20	21	20	20

3. 関連会議・打ち合わせ等

5. 在宅医療推進強化事業

1. 関連会議・打ち合わせ等

日にち	会議・研修名	会場/開催方法
9/1	医師会・豊島区 打ち合わせ	5階会議室
11/8	医師会・システム会社 打ち合わせ	6階会議室
11/22	医師会・システム会社 打ち合わせ	6階会議室
11/29	医師会・システム会社 打ち合わせ	6階会議室
12/7	東京都医師会-地区医師会担当理事連絡会	5階会議室/WEB
12/20	医師会・看護師会・システム会社 打ち合わせ	6階会議室/WEB
12/27	医師会・看護師会・システム会社 打ち合わせ	6階会議室/WEB

2023年度 豊島区歯科相談窓口 実績報告書

(2023年4月～2024年3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	新規ケース	22	23	22	27	19	13	14	18	21				179
受付方法	電話	20	23	22	22	18	12	14	18	21				170
	メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	来所	2	0	0	3	1	1	0	0	0				7
	その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0				0
依頼者	本人	4	6	9	9	9	2	5	5	3				52
	家族	6	5	5	7	5	4	3	8	8				51
	医療機関	1	2	2	4	0	2	0	0	1				12
	訪問看護ST	0	1	1	0	0	0	1	0	2				5
	居宅介護支援事業所	11	9	5	7	5	4	5	4	5				55
	高齢者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	行政機関	0	0	0	0	0	1	0	0	0				1
	子ども家庭支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	2				3	
依頼経路	医療機関	3	5	5	5	6	3	3	6	7				43
	訪問看護ST	0	1	1	0	0	0	2	0	2				6
	居宅介護支援事業所	11	9	4	7	5	6	3	4	6				55
	高齢者総合相談センター	1	0	0	0	0	3	0	0	0				4
	行政機関	1	0	4	6	2	0	1	0	2				16
	在宅医療相談窓口	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	子ども家庭支援センター	0	1	1	0	0	1	0	0	0				3
	パンフレット	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
ホームページ	0	3	4	4	2	0	0	3	0				16	
その他	6	4	3	4	4	0	4	5	4				34	
相談内容	在宅歯科	14	16	10	13	10	8	9	7	11				98
	障害者歯科	6	5	6	4	7	3	3	9	8				51
	連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	情報提供	2	2	6	10	2	2	2	2	2				30
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
相談対応方法	電話	82	114	52	81	48	48	57	62	68				612
	メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	FAX	27	39	16	24	13	20	18	14	26				197
	来所	2	0	0	3	1	1	0	0	0				7
	その他	0	0	0	3	6	0	0	0	0				9
転帰・調整先	あぜりあ歯科診療所	17	5	3	4	7	3	3	9	7				58
	病院(歯科口腔外科)	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	病院(医科)	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	診療所(歯科)	2	1	0	6	2	1	1	1	1				15
	診療所(医科)	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	訪問看護ST	0	0	0	1	0	0	0	0	0				1
	居宅介護支援事業所	0	16	7	9	6	6	8	7	10				69
	高齢者総合相談センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	行政機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
その他(情報提供等)	4	3	9	12	3	1	1	3	2				38	
コーディネーター数	ケース数	12	17	12	19	11	11	11	14	16				123

普及啓発および情報収集(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
新聞掲載、広報としま掲載、各団体にパンフレット配布他														

会議・研修等	会議	7	6	6	5	4	5	4	3	4				44
	研修	0	1	0	0	1	0	2	0	1				5
	講演会	1	1	1	3	0	1	1	1	0				9
	その他	0	1	2	1	1	1	1	1	2				10
	合計	2	9	9	9	6	7	8	5	7				68

2024年1月25日

令和5年度豊島区在宅医療コーディネーター養成講座基礎編 実施報告

東京大学大学院医学系研究科在宅医療学講座
水木麻衣子

1. 概要

豊島区在宅医療コーディネーター養成講座は、2010年に、患者への意思決定支援と関係者の合意形成を積極的に担う人の養成を目的に開講された。受講者は豊島区内のケアマネージャーを中心に、豊島区内の各事業所の医療・介護関係者の方なら誰でも参加できるようになっている。講座は年に5回（月に1回3時間を5か月間）開講され、基礎編と上級編から構成されている。基礎編では意思決定支援の基本や「がん」「臓器不全」「認知症」といった疾患の軌跡の理解と口腔嚥下、服薬管理、病院との情報連携など支援に必要な知識を習得するカリキュラム、上級編は受講者が知っているようで知らない医療の仕組みや制度を理解するカリキュラムになっている。受講者募集や会場設営、資料手配等は豊島区地域保健課の職員が担当し、内容については、水木がプログラムを構成し、豊島区の在宅医療従事者、病院関係者に講師を依頼して構築している。今年度は基礎編を開講した。

2. カリキュラム

時間	内容	講師
9/29 13:00～ 16:00	在宅医療ケアでよく見る疾患、症状の解説、在宅医療における医師の役割	町のクリニック目白 豊島区医師会 理事 重島祐介先生
10/26 13:00～ 16:00	在宅医療ケアの場で行われる意思決定支援を症例検討の形で学ぶ	日本医療コーディネーター協会 水木麻衣子
11/30 9:30～ 12:30	がん、非がん患者の在宅療養支援の実際、アセスメントや心理支援について、病の軌跡をたどりながら学ぶ	池袋本町訪問看護ステーション 豊島区看護師会代表理事 村崎佳代子先生 要訪問看護ステーション 豊島区看護師会理事 鈴木悦子先生
12/21 13:00～ 16:00	薬の基礎知識と薬剤師の役割について 歯科医師の役割と口腔ケアと嚥下について	タサキ薬局 豊島区薬剤師会常務理事 田崎崇先生 高田歯科医院 豊島区歯科医師会会長 高田靖先生
1/12 13:00～ 16:00	地域における病院の役割と機能、病院内外の連携等の実際、病院内の退院支援や医療機関との情報連携について学ぶ	東京都立大塚病院 川中子真由美先生 磯部祥子先生

3. 参加者の特徴

施設のケアマネージャーから居宅に移った方や、介護職としての経験は長いがケアマネージャーの資格をとって間もない方、経験がすごくあるけれど初心にかえろうとおもった方が、医療の知識、医療者の考え方を知りたいと思い、参加されている。

4. 受講者の感想

●医師の役割、疾患の理解

- ・総合診療という言葉は初めて聞いた。
- ・ケアマネと同じ視点を持ってきている医師だと思った。在宅医療の医師が総合診療の勉強をしてくれていたらいいのに。
- ・在宅医療をする医師はみんな総合診療医だと思っていたが、違うということがわかり、謎が解けた。
- ・総合診療医が、医学的な視点だけでなく、人を見ていることがわかりうれしかった。
- ・ヘルパーからケアマネになり、医療のことがわからなすぎたが、とても勉強になった。

●意思決定支援の症例

- ・いろいろな事例を聞き、自分だったらどうするか、支援のタイミング、根拠を考えさせられました
- ・利用者一人一人の今後（QOL向上）を目指し、もっと丁寧に考えていかないといけない
- ・医療の使い方の難しさ、うまくいかなかったときの難しさを確認できた。助言してもらえる医療従事者を探すことがまず難関。

●病の軌跡とケアのアセスメント

- ・ご本人、ご家族に寄り添って、プロフェッショナルな判断、処置をされている様子がすばらしい
- ・受けたことのないケースが多く、勉強になりました。在宅ではフットワークよく動くことが大事だと思います。
- ・ご家族、ご本人の病状の理解への説明の難しさを感じました
- ・グリーフケアまで支援する大切さを感じた
- ・本人が長年関わっていた主治医がいるので、すぐに在宅医療専門の医師を紹介しつなげるのではなく、主治医を選ぶ時には本人の意向や主治医の考え方にも配慮することが大事
- ・ターミナルでは、ケアマネとして気が引けてしまう時も多い（できないので）、今後は看護師や医師にも積極的に話を聞いていこうと思いました。

●薬の基本的な知識と歯と口腔ケアの考え方

- ・基本の薬がいっぱいできてとても分かりやすかった。以前、医師に薬を確認したときに怒られたことがあり、そこから医師にお任せ状態です。
- ・薬のことは重要な問題で特に副作用や飲み残しなど悩みは多くあります。薬剤師に相談したいケースもたくさんあり、今後は積極的に相談したいと思いました。
- ・薬剤のことも口腔のこともとても大切な講義を聞かせて頂きとてもよかったです。連携させて頂ければと思いました。
- ・食事場面の観察ポイントがためになった。退院時の指示だけでなく、自宅に戻ったアセスメントの重要性を感じました。
- ・多職種連携の重要性を考えさせられました。

- ・口腔を見落としていたので今後注意してプランにいれたい。
- ・普段よく目にする薬について知ることができました。薬の血中濃度、Cmax が印象深かったです。
- ・オーラルフレイルが全身のフレイル予防につながると学びました。
- ・噛むことに運動機能や脳の活性が含まれていることにびっくり。カロリーギアチェンジのタイミングを見落とさないようにしたいです。
- ・事例検討を個人ワークしてから先生の説明を聞くパターンがわかりやすくよい研修だと感じました。

●病院

- ・大きな大塚病院でも入院の相談ができることを知り、うれしく思いました。
- ・入院した利用者の IC にケアマネも参加させてほしいと思った。
- ・予定入院の際に在宅療養の様子を記載して持参してもらおうと、病院との連携も取りやすくなりいいことだと思った。今後はそのような対応をしていこうと思う。
- ・医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師の役割の違いを知りませんでした。大学病院は連携がとりづらく、受診日に一緒に同行し、直接話を聞いています。
- ・医療との連携は難しいという思いは変わりませんが、病院側の実際を細かく知ることができ、理解でき、気持ちが楽になる講義でした。
- ・病院の機能をよく知らないと利用者のことをどこに相談していいのかとまどってしまう。

5. 考察

参加者の受講動機を聞くと、医療介護の経験はあるが、同じ領域での仕事でも、立場や場所が変わることで、見えるものが違い、必要な知識技術が違うことがわかる。本研修では、新しい知識の提供よりは、それぞれが経験したことを知識に置き換えていくための時間になるよう、講師の講義の後に、質疑の時間をとり、そこで受講者の経験と知識をむずびつけるようにしていった。その経験値が多職種連携の基盤になるのだろうと思う。

令和 6 年 1 月 23 日

高齢者総合相談センター 各位

公益社団法人豊島区薬剤師会 会長 佐野 雅 昭
公益社団法人豊島区医師会 会長 土屋 淳 郎
公益社団法人東京都豊島区歯科医師会 会長 高 田 靖
一般社団法人豊島区看護師会 会長 村 崎 佳代子

地域医療連携推進会議交流会へのご協力をお願い

平素より豊島区四師会へのご理解ご協力、誠にありがとうございます。

さて、本年度地域医療連携推進会議交流会を下記の要領で開催いたします。

新型コロナウイルスの流行により、区民を始め医療・介護従事者そして行政関係者等の皆様の感染症パンデミック、災害に対する知識や経験値が向上したと感じております。また、多職種のつながりにより様々な問題に対応できることを体感致しました。

本年度の地域医療連携推進会議交流会における基調講演は、在宅での疼痛管理について医療・介護従事者が共通認識を持ってもらう事を目的としました。

報告会では、交流会の中で様々な職種の業務内容を知る機会を持ちたいと考え、今回は地域の中心である高齢者総合相談センターにその取り組みをご発表いただきたくと思います。

懇親会では、多職種の方々と基調講演や報告会についての意見交換や懇談を深めていただきたくと考えております。

つきましては、「第 2 部 報告会」で 8 分程度の短い時間で恐縮ですが、各高齢者総合相談センターよりご発表いただきたく、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

【日 時】 令和 6 年 3 月 2 日（土） 15 時より 18 時まで

【場 所】 豊島区役所 1F としまセンタースクエア（豊島区南池袋 2-45-1）

【内 容】 第 1 部 基調講演
演題 「在宅での麻薬」
講師 埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長 余宮 きのみ 先生

第 2 部 報告会
高齢者総合相談センターの取り組み

第 3 部 懇親会

※ 豊島区全体の交流を深めるため、各圏域より 10 名程度多職種の出席をお願いしたいと存じます。後日ご参加頂ける方の名簿をお知らせいただきたく、2 月中旬ごろ改めてご連絡申し上げます。

以 上

問合せ先：豊島区薬剤師会 事務局 03-3984-7519